

【校章の制定由来】

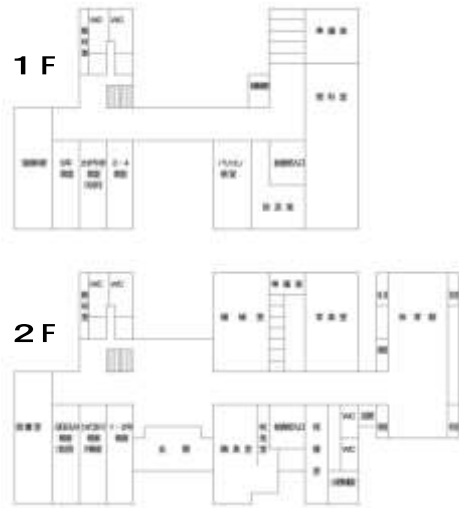


本校の校章は、
勉学に励む姿を表
すペンを北海道に
もっとも相当した雪の結晶にかた
どり、銀いぶして純潔白を表し、
ペンの切れ目にはカタカナのウの
字とアルファベットのUの字を図
案化して、愛国心と世界に目を向
ける心を表したものである。

【学校の沿革】

大正	9年	6月30日	公立中富良野尋常小学校宇文特別教授場として開設
	11年	3月20日	公立宇文小学校と改称
昭和	9年	4月1日	公立宇文尋常学校と改称
	16年	4月1日	宇文国民学校と改称
	22年	4月1日	中富良野村立宇文小学校と改称
	23年	5月	中富良野中学校宇文分校併置
	27年	4月	宇文中学校併置
	37年	4月	宇文中学校中富良野中学校に統合
	39年	4月	中富良野町立宇文小学校と改称
	41年	9月	宇文小学校校歌制定
	42年	11月	校舎新築 グランド整地拡張工事完了
	45年	6月30日	開校50周年記念式典
	60年	12月21日	新校舎落成記念式典・祝賀会
平成	13年	2月10日	開校80周年記念式典・講堂落成式典・祝賀会
	22年	4月1日	開校90周年記念式典

【校舎平面図】



【在籍児童数】

学年	男子	女子	計
1年	1	2	3
2年	1	0	1
3年	1	0	1
4年	1	2	3
5年	3	0	3
6年	0	0	0
計	7	4	11

【PTA役員】

役職	氏名
会長	小瀬峰行
副会長	山田敏寛
監事	奥山祐二
会計	間山九妃
顧問	里村徹(校長)
事務局長	栗原主税(教頭)

【教職員一覧】

職名	氏名	担任	校務分掌	前任校
校長	里村 徹			名寄市立名寄小学校
教頭	栗原主税			枝幸町立音標小学校
教諭	仙庭裕美	1・2年	指導部文化係	旭川市立第三小学校
教諭	齊藤英俊	ほほえみ	教務部教務係	和寒町立和寒小学校
教諭	高見直広	ひだまり	指導部生徒指導係	美瑛町立美馬牛小学校
教諭	菊地絵美	3・4年	教務部研究係	旭川市立永山南小学校
教諭	武田昂幸	5年	保体部体育係	旭川市立豊岡小学校
教諭	岩間 歩	かがやき	指導部児童活動係	新採用
養護教諭	竹元 彩		保体部保健美化係	名寄市立名寄南小学校
事務職員	久保美穂香		事務部事務経理係	
公務補	松永 博		事務部校具・環境整備	

宇文小学校校歌

作詞 坂本富貴雄
作曲 穴戸 馨

一、 緑の田の面
里の歴史が
おおしく元気な
郷土の夢を
伸びゆく

二、 十勝の山の
仰ぐひとみが
正しく豊かな
日本のあすへ
明るい

三、 そびえる木立ち
いつも歌声
優しくかしい
世界の友と
楽しい

わたる風
かおります
からだを鍛え
咲かせよう
宇文小学校

けだかさを
光ります
知識をみがき
はばたこう
宇文小学校

学びやに
聞こえます
心をそだて
肩くもう
宇文小学校

平成30年度
学校要覧

未来を切り拓く知恵と
心豊かでたくましい心身をもつ子ども



少人数のよさを最大限に発揮し、地域とともに一人一人が輝く教育を推進する学校

中富良野町立宇文小学校

〒071-0774 北海道空知郡中富良野町東4線北7号
TEL 0167-44-2881
FAX 0167-44-3240
ホームページ <http://www.furano.ne.jp/school/ubun/>
メール ubun@furano.ne.jp

平成30年度 中富良野立宇文小学校 学校改善プラン D-CAPシート

学校教育目標

未来を切り拓く知恵と心豊かでたくましい心身をもつ子ども

合言葉

未来へ輝け 宇文子

求める子ども像

進んで学ぶ子(知)

学力向上

Do

思いやりのある子(徳)

道徳性向上

Do

ねばり強い子(体)

体力向上

本年度の重点教育目標

進んで学び合い、生きて働く知識・技能を身に付け、自ら問題を乗り越える子ども

互いのよさを認め、他者と共によりよく生きる子ども

粘り強く自ら心身を鍛え、自分の命と健康を自分で守る子ども

児童の実態と課題

「学び合いを大切にしたい主体的・対話的で深い学びのある授業」において、子どもが「進んで自分の意見を発表し、友達の考えをよく聞いて話し合いを行う」ことについて課題が見られた。また、全国・学力学習状況調査の結果から、身に付けた知識・技能を活用して自ら問題を解決する能力について課題が見られた。

児童の実態と課題

今年度の道徳教育の重点目標に設定した価値項目B[相互理解]「自分の考えや意見を相手に伝えるときに相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること、年度末学校評価の結果から「人と関わり合う多様な活動を行い、自己理解と他者理解を深めていく」内容についてさらなる向上が求められた。

児童の実態と課題

今年度の道徳教育の重点目標に設定した価値項目A[希望と勇気、努力と強い意志]「より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやりぬく」こと、年度末学校評価の結果から「目標の実現や自らの健康管理のために生活を自律的に行うこと」について課題が見られた。

改善の方向(運営の重点)

- 1 新学習指導要領移行期における「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す確実な実施、評価、改善を図る教科経営・学級経営
- 2 学力向上に向け全校で統一した指導方法と効果的な指導体制の確立
- 3 少人数・複式での「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実現、
- 4 喫緊の課題の解決を図る日常の授業改善に直結した研修の充実

改善の方向(運営の重点)

- 1 豊かな心を育む読書活動の充実と読書習慣の確立
- 2 自己有用感を高める学芸的行事の充実
- 3 自己規範意識と望ましい人間関係の確立を図る生徒指導の推進
- 4 他者とのよりよい関わりにより自己実現を目指す児童会活動の推進

改善の方向(運営の重点)

- 1 体力の状況を児童自身が把握し主体的に向上を図る体育活動の充実
- 2 日常生活における体を動かす機会の設定や学校、地域・家庭が一体となった体力づくりの推進
- 3 心身の健康保持増進となる保健指導による望ましい生活習慣の確立
- 4 命と健康を守る意識を基盤とした食育及び環境美化の推進

改善(運営)の具体策

- 1 に関わって(教務係)
 - ・新教育課程の適切な実施を図る時数管理、指導体制等の教科経営、教育効果をも高める学級経営、指導の改善に向けた評価(チャレンジテスト等による実態把握、移行期に対応した通知表の改定等)を推進する。
- 2 に関わって(教務係)
 - ・基本的な学習過程、学び方、学習規律等の「そろえる活動」を構築するとともに、家庭学習習慣の定着を図り、学力向上に向けた効果的な指導内容及び体制を確立させる。
- 3 に関わって(研修係)
 - ・話し合いによって考えや学びの質が深まる指導方法を確立し共有するための授業実践を推進する。
- 4 に関わって(研修係)
 - ・全ての子が「わかった」「できた」と実感できるユニバーサルデザイン授業や道徳科、外国語、外国語活動の授業改善を図る研修を推進する。

改善(運営)の具体策

- 1 に関わって(文化係)
 - ・個に応じた宇文子チャレンジ読書の取組を工夫し、家読を定着させる。
- 2 に関わって(文化係)
 - ・互いのよさを認め合える文化的行事(学芸会、文化発表会等)、作品展の取組、校内掲示(全校共通の教室掲示、読書コーナー、体力コーナー等)を工夫・充実させる。
- 3 に関わって(生徒指導係)
 - ・いじめアンケート、子ども支援ツール「ほっと」の結果の分析、共有し効果的に指導に活用する。
- 4 に関わって(児童会係)
 - ・よりよい学校生活を目指した子どもの願いが実現できる児童会活動、集会活動の工夫・改善を図る。

改善(運営)の具体策

- 1 に関わって(体育係)
 - ・「体力手帳」の作成と活用、課題となる能力の向上を図る体育授業及び体育的行事(遠足、運動会等)の工夫・改善を図る
- 2 に関わって(体育係)
 - ・目標達成に向け年間継続して取り組む「体力づくりの日」の工夫・改善や、地域スポーツ行事と連動した体力づくりを推進する。(スポーツ育成会と連携)
- 3 に関わって(保健美化係)
 - ・メディアにふれる時間、早寝早起き朝ごはんなど基本的な生活習慣の実態を把握し、改善への取組(保健指導、保健だより、担任との連携)を推進する。
- 4 に関わって(保健美化係)
 - ・全校給食の実施とその場での計画的な食育、歯磨き指導、清掃美化指導等を行う。

数値目標

- ◆児童アンケートの「学年×10分+10分の家庭学習に毎日取り組めた」を合わせて80%以上とする。
- ◆チャレンジテスト学年末問題の正答率を上川平均以上とする。

数値目標

- ◆チャレンジ読書の目標リストを達成した子を80%以上とする。
- ◆いじめアンケートで「いじめ0」「誰かに相談する」「いじめはどんなことがあっても許されない100%」とする。

数値目標

- ◆体力テストの前年度全国以下だった種目を1種目以上全国以上とする。
- ◆メディア(TV・ゲーム、スマホ等)に触れる時間を2時間以内とする。

教務部

夢をもち、目標に向かって自ら学び続ける宇文子
教務係・研究係、道徳教育推進教師

指導部

発見!一人一人のよいところ!
文化係・生徒指導係・児童活動係、特別支援教育コーディネーター

保体部

しっかり運動 すっきり心と体
体育係・保健整備係

経営の方針

少人数のよさを最大限に発揮し、地域と共に一人一人が輝く教育の推進

- 1 社会に開かれた教育課程のカリキュラムマネジメント
- 2 学校組織マネジメント(学校評価システム・検証サイクルの確立、ワークライフ・バランスの推進)
- 3 家庭・地域とのパートナーシップ(CSの立ち上げ)
- 4 学級経営の充実
- 5 危機管理の充実
- 6 実践力を高める研修・キャリアステージに応じた人材育成